

第1回岩内町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事概要

開催日時：平成27年8月26日（水）18：25～20：40
開催場所：岩内町役場 会議室（2F）

<次第>

- 1 開 会
- 2 委員会委員 委嘱
- 3 町長あいさつ
- 4 議 題
 - (1) 委員会の目的と今後の運営について
 - (2) 岩内町の人口の概観について
 - (3) アンケート調査について
 - (4) その他
- 5 閉 会

<出席者数>

計17名

①委員：10名

②事務局：岩内町5名、道銀総研2名

1 開 会

○事務局：(開会)

2 委員会委員 委嘱

○町長：(委員へ委嘱状交付)

3 町長あいさつ

○町長：(挨拶)

4 議題

(1) 委員会の目的と今後の運営について

○事務局：(資料1、2、3説明)

委員長は委員の互選となるが、町としては、学識経験者として就任いただいた大津先生にお願いしたいがどうか。

<異議なしの声あり>

○委員長：(挨拶)

副委員長は小熊副町長に引き受けいただければと考えているがどうか。

<異議なしの声あり><小熊委員 了承>

○委員長：各委員より自己紹介をお願いしたい。あわせて、岩内町、道銀総研からもお願いしたい。

<各委員、及び事務局・岩内町、道銀総研自己紹介>

(2) 岩内町の人口の概観について

- 委員長：事務局、資料説明をどうぞ。
- 事務局：(資料4、5、6、7説明)
- 委員長：質問等はあるか。
最終的に委員会としては、人口ビジョン案、総合戦略案をまとめるか。
- 事務局：委員会では人口ビジョンと総合戦略案について意見等いただきながらつくりあげ、最終的には岩内町へ答申をすることとなる。
- 委員長：それでは、岩内町の人口について説明ください。
- 事務局：(資料8説明)
- 委員長：質問等はあるか。よろしいか。

(3) アンケート調査について

- 事務局：(資料9説明)
- 委員長：質問等はあるか。
高校卒業後、もしくはその少し先あたりで、人口が流出しているが、岩内高校の卒業生の進路状況はどのような傾向にあるか。
- 委員：岩内高校には町外から通学する生徒もいるが、町内から通学する生徒が多い。進路としては短大・大学への進学が全体の約3割、専門学校が約3割、就職が約4割。専門学校、短大・大学は町内にないので流出する。就職する卒業生も全員が町内に残るわけではない。
生徒の中には、割合をおさえているわけではないが、地元に住みたかったという卒業生もいる。
- 委員長：実態は約6割が流出ということか。
- 委員：その後Uターンしているかもしれないが、まずは高校卒業時に約6割が流出している。流出先は、道外よりは札幌が多い。地元で就職したい生徒がいるが、就職先がなくて流出というパターンもある。
- 委員長：仕事先の確保がまずは重要で、その上でまちでの生活がある。高卒での雇用の受け皿として状況はどうか。
- 委員：当ハローワークは6市町村を管轄しているが、管轄内において、求人倍率は高く1.59倍。観光産業が好調である。ただ、非正規雇用の求人はあるが、正規雇用の求人が少ないということがネックだと思う。
- 委員長：業種によってマッチングがうまくいっていないということはあるか。
- 委員：ミスマッチは起きている。事務職は人気だが求人自体が少なく、建設系、技術系は求人があるが就職先として選ばれにくい。
- 委員長：地域の企業の抱えている課題としてはどうか。
- 委員：非正規雇用が多いが人気はない。観光産業も求人は多いが語学力を問われるため、条件的にどうかという状況。また、いわゆる3Kは非常に人気が無い。
- 委員長：非正規だと、結果的に結婚、出産につながりにくいという構造的な問題となる。
この地域において、経済状況はどう考えているか。
- 委員：経済状況がよくなっていると思っている企業は少ない。正規社員から、パートに切りかえているところもある。サービス業は人手が必要なので雇用を増やしているが、非正規やアルバイトとなっている。昔と比べて、産休等の制度が充実しているが、新卒が採用されていない。
- 委員長：医療系は外から人を雇用しているか。
- 委員：沖縄新聞に北海道で働きませんかと求人広告をだし、説明会もやっている。道外から関心を持っている方もいる。看護師として就職し、北海道へ移住をと考えている方もいる。
- 委員長：南の方は、北に憧れるという傾向を活かして周知活動をされているということか。
- 委員：沖縄でまずは試しに求人活動をしたら4、5名うちで就職して頂いたという実績がある。
- 委員長：岩内町に来られて2年目ということだが、どういった経緯か。
- 委員：以前ニセコ町で観光乗馬関連の仕事をしていた。岩内町でもやっていきたいという思いで、ここでやっている。馬がいるという景色をつくりたい。競走馬を扱っているので、競走馬ファンの方も見に来てくれている。来た方に岩内町はいいところだということも発信してもらって、一人でも多くこの町のことを伝えてもらえればと思っている。

- 委員長：近隣への流出もあると思うが、広域での産業構造はどうか。新幹線延伸に関してはどうか。
- 委員（代理）：新幹線が倶知安、札幌まで延伸する。横断道としては小樽から余市が高速でつながり、余市と共もつながっていく。後志管内としては交通インフラは充実しつつある。倶知安、留寿都、キロロも有名な外資企業が入ってきている。
農業は、人手が足りていない。ミニトマトのように施設栽培物が増えてきているので、特に人手が必要だが足りていないので、農業も拡大できない状況。冬はリゾート、夏は農業という働き方を提案したいところである。若年層が地域に残って定住してくれれば、労働力も確保できる。今年意向状況を把握し、取り組みたい。
就業につながるような、観光に関わる語学力を伸ばす教育をしてほしいというニーズがある。語学力があると収入が2倍になる。対応すべき事項と考えている。
- 委員長：交流人口が増える可能性はあるが、定住につなげていけるか。教育に関していえば樽商大としてはどういった協力、連携ができるか知恵を出さなくてはと思う。
アンケートを行うということで、調査対象先、内容はこれでよいかどうか。
資料9-1 町民向はどうか。仕事関係はこれでよいか。
資料9-2 若年層向はどうか。回答者属性は観光、福祉、医療系等、産業別でも聞いたらどうか。
資料9-3 高校生向はどうか。現時点での進路や、就職希望はどうか。
- 委員：分析するとき、1、2年生はまだ進路に対する意識が低い。3年生はある程度決まっている。学年別で結果を分析して欲しい。
- 委員長：高校生に問10は回答が難しいか。
- 委員：確かにちょっと難しいかもしれない。高校生向アンケートは岩内高校で実施する場合、岩内高校ではなく町外へ通っている高校生はどうするか。
- 委員長：岩内高校と樽商大ではこれまで、キャリア教育関係でつながりがある。高校生は重要な世代なので、当事業において、樽商大の都市計画ゼミで、高校生向けにワークショップを開き、問10の内容をはじめ、ビジョンといった意向等を把握してみるというのはいかがでしょうか。事務局と相談しながら、次回までに具体的な取り組み方法等含めてはかりたい。
その他、よろしいか。一度持ち帰っていただいて、何か意見等あれば、町の方へいただきたい。

(4) その他

- 委員長：事務局どうぞ。
- 事務局：アンケートについては調整等しながら進めていく。次回は、10月を予定しており、改めて調整する。
時間帯について、今回は午後6時半からとしたが、皆様のご都合のよい時間帯を改めて確認させていただきたい。
- 委員長：全体通じていかがか。よろしいか。
- 委員：今後について、質問等があった場合、委員同士で連絡、コミュニケーションとれないか。
- 委員長：質問は役場に、委員全員で共有したい情報は、役場にいったん寄せて皆さんにメールで連絡するということになるか。
- 事務局：はい。
- 委員：アンケートについて、雇用のミスマッチ状況を把握したいので、高校生向け等では、どういったところに就職したいか、ただ募集はあるが希望する企業ではない、町内に希望企業がなかったらどうするかという質問があるといい。
- 委員長：回答の誘導にはならないよう留意しながら、設計する。ワークショップでは、生活と仕事の描き方も含めて話し合いたいと思っている。

5 閉会

- 委員長：(閉会)

以上